●特集 KOWBA設立10周年

北九州市海外水ビジネス推進

～KOWBA10年の足跡と今後の

カンボジア工業手工芸省・北九州市・KOWBA3者協定（2016年）

石原副幹事長

佐藤副会長

国内の問題解決の糸口にも…佐藤
持続できるビジネス展開を…石原

↙こちらです。

中西 当局では、JICAの草の根技術協力事業や技術協力プロジェクトに積極的に参加してきました。

現在は進の根技術協力事業の案件は2件で、ミャンマー国マンダレー市の水道事業とベトナム国ハイフォン市での下水道事業になります。技術協力プロジェクトも2件で、カンボジアの水道事業と下水道事業で2人の職員を派遣しています。

国際技術協力から水ビジネスへの発展が問われているわけですが、カンボジアやベトナム各例にしますと、JICAの草の根や技術協力プロジェクトをいったODAの案件に形成していくかということになります。

↙り、KOWBAのメンバーとしても関与しています。KOWBAにおける北九州市と会員企業の結節点としての役割を担っているのがKWSです。これは非常に重要な仕組みです。

第3は現況を変えて、KOWBAの活動が水道の国内問題の解決に向けた糸口になるのではないか、ということです。国内の水道技術継承、施設の老朽化が多くの問題を抱えています。その解決策として水道広域化が進められていることは皆さんもご承知のとおりです。

これを海外技術協力、或いはボンビネスで支援すると、国を超え、時代を超え、広域に取り組んでいるということになります。今現在、国内で進められている水道広域化への取り組みと共通する部分があると思います。

国際広域化という概念はありませんが、水に関する知識や技術、ノウハウを国内では行政区域を、海外では国という区域を超えて連携するとともに、ひょっとすると国内の水道が抱える諸課題に対する基盤があるとも思います。

今3点を挙げましたが、KOWBAに集まった会員企業の、官民連携に対する強い思いの共有は重要です。

平成13年の水道法改正以降、官民連携が唱え始められ、現在に至っていますが、もともと日本の水道が発展してきたのは、官民がそれぞれの場で役割を果たしてきたからです。

KOWBA北九州市と一体になった会員企業の活動で、実は最古の日本の水道の成長発展に隠れた要因が内在しているものと思います。

KOWBAは上下水道分野の水ビジネスに対する基盤があるとともに、ひょっとすると国内の水道が抱える諸課題に対する基盤があるとも思います。

石原 中西局長が話されたユース研修の件です。当社もハイフォンにおいて10名近くの学生に対応した経験があります。かなりつっこん在校生が染め大人のビジネスマンのような質問が多く、たくましく感じました。

ユース研修を育った人材が上下水道に関心を持ち、将来、我々の業界に来ていただけるかもしれないという期待が持てる事業と思います。今年は三年目ですが、来年も事業として継続してほしいと思っています。

また我々はビジネスの切り口から海外市場を見ますから、国際協力とは違ったものになって、視野が狭いものかもしれません。我々の業務、ビジネスに関わることは、いかに目的を達成するか、そして持続したものにしていくか、と考えるわけです。

KOWBA設立から受注が始まり、これまでは点の活動でした。今後は面の活動に広がることを期待しています。

幸いにKOWBAが足元を支えていただける。さらに北九州市の活動もある。現地のパートナーと連携し、点ではなく、面として持続できるビジネスの展開をKOWBAと共に考えていくとうです。

今後の展開

―今後の展開についていかがお考えですか。

中西 今後の展開としましても、当局としては国のODAを使った国際技術協力がメインになります。

カンボジアやベトナムなら現状の主対象国ですが、これらの国々も開発途上国から中進国へ発展すると、無償対象国を卒業することが想定されます。そうすると次は借款事業は日本だけではなく、どうしても国際的な、海外では国という区域を超えて連携するとともに、ひょっとすると国内の水道が抱える諸課題に対する基盤があるとも思います。

佐藤 KOWBAの活動で、2011年はカンボジア・シェムリアプ浄水場拡張計画の調査業務で、北九州市の橋本さんと一緒にプレイヤーとして関わりました。

その時に見たのは、北九州市の方々が持っている知識、ノウハウをいかにして現地に活かしているのか、現地の水道の発展にどのように貢献しているのか、ということです。そうした経験を踏まえ、KOWBAのこれまでを振り返ると、いくつか見えてくるものがあります。

設立からの助走期には、現地国との交流、或いは情報収集活動があって、その後、KOWBAの離陸期に入ります。ここでは実際にカンボジアなどにおける水道事業に向けた準備に入ります。

そして北九州市の知識とノウハウを基礎とした基本計画の策定から水施設の本体工事を行う受注にまで発展・成長してきたわけです。

助走期、離陸期を経て、現在は発展期に移行する段階と評価しています。

2つ目は上下水道事業の関係者がそれぞれの立場であるが故に発展する舞台装置になっていると言えるのです。その中で相手国の上下水道の発展に大きな貢献が果たされてきたKOWBAの実績からも成果が明らかですが、株式会社北九州ウォーターサービス（KWS）が事務局機能を果たしていることも見逃せません。

KWSは公民共同企業体で企業性、或いは柔軟性を備えた会社であり、KOWBAのメンバーとしても関与しています。

KWSは、海外で活動するKOWBAの国内問題の解決に向けた糸口になるのではないか、ということです。国内の水道技術継承、施設の老朽化が多くの問題を抱えています。その解決策として水道広域化を国内では行政区域を超えて、海外では国という区域を超えて連携するとともに、ひょっとすると国内の水道が抱える諸課題に対する基盤があるとも思います。

石原 中西局長が話されたユース研修の件です。当社もハイフォンにおいて10名近くの学生に対応した経験があります。かなりつっこん在校生が染め大人のビジネスマンのような質問が多く、たくましく感じました。

ユース研修を育った人材が上下水道に関心を持ち、将来、我々の業界に来ていただけるかもしれないという期待が持てる事業と思います。今年は三年目ですが、来年も事業として継続してほしいと思っています。

また我々はビジネスの切り口から海外市場を見ますから、国際協力とは違ったものになって、視野が狭いものかもしれません。我々の業務、ビジネスに関わることは、いかに目的を達成するか、そして持続したものにしていくか、と考えるわけです。

KOWBA設立から受注が始まり、これまでは点の活動でした。今後は面の活動に広がることを期待しています。

幸いにKOWBAが足元を支えていただける。さらに北九州市の活動もある。現地のパートナーと連携し、点ではなく、面として持続できるビジネスの展開をKOWBAと共に考えていくとうです。

今後の展開

―今後の展開についていかがお考えですか。

中西 今後の展開としましても、当局としては国のODAを使った国際技術協力がメインになります。

カンボジアやベトナムなら現状の主対象国ですが、これらの国々も開発途上国から中進国へ発展すると、無償対象国を卒業することが想定されます。そうすると次は借款事業は日本だけではなく、どうしても国際的な

や事業規模も大規模になりますし、当然、相手国も返済義務が生じます。

そこでの案件形成となると、官による都市間連携を生かした支援や調整が求められます。また内国民待遇、或いは柔軟性を備えた会社であり、KWSが事務局機能を果たしていることも見逃せません。

KWSは公民共同企業体で企業性、或いは柔軟性を備えた会社であり、KOWBAのメンバーとしても関与しています。

KWSは、海外で活動するKOWBAの国内問題の解決に向けた糸口になるのではないか、ということです。国内の水道技術継承、施設の老朽化が多くの問題を抱えています。その解決策として水道広域化を国内では行政区域を超えて、海外では国という区域を超えて連携するとともに、ひょっとすると国内の水道が抱える諸課題に対する基盤があるとも思います。

石原 中西局長が話されたユース研修の件です。当社もハイフォンにおいて10名近くの学生に対応した経験があります。かなりつっこん在校生が染め大人のビジネスマンのような質問が多く、たくましく感じました。

ユース研修を育った人材が上下水道に関心を持ち、将来、我々の業界に来ていただけるかもしれないという期待が持てる事業と思います。今年は三年目ですが、来年も事業として継続してほしいと思っています。

また我々はビジネスの切り口から海外市場を見ますから、国際協力とは違ったものになって、視野が狭いものかもしれません。我々の業務、ビジネスに関わることは、いかに目的を達成するか、そして持続したものにしていくか、と考えるわけです。

KOWBA設立から受注が始まり、これまでは点の活動でした。今後は面の活動に広がることを期待しています。

幸いにKOWBAが足元を支えていただける。さらに北九州市の活動もある。現地のパートナーと連携し、点ではなく、面として持続できるビジネスの展開をKOWBAと共に考えていくとうです。

今後の展開

―今後の展開についていかがお考えですか。

中西 今後の展開としましても、当局としては国のODAを使った国際技術協力がメインになります。

カンボジアやベトナムなら現状の主対象国ですが、これらの国々も開発途上国から中進国へ発展すると、無償対象国を卒業することが想定されます。そうすると次は借款事業は日本だけではなく、どうしても国際的な

ベトナム国アンズオン浄水場のU－BCF施設

カンボジア国モンドルキリ州センモノロム浄水場

日本原料の考える 新しい水道のかたち
https://www.genryo.co.jp
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
モバイルシフォンタンクは SDGs に適合した製品です
地方給水のソリューション、
可搬型浄水装置による自立型分散水道
可搬型 砂ろ過浄水装置『モバイルシフォンタンク』
Mobile SIPHON TANK
●ろ過材交換不要
●高濃度原水対応
●移動・移設可能
これは小さな浄水場
日本原料株式会社 海外事業部
〒210-0005 神奈川県川崎市川崎区東田町1-2
TEL.044-222-5555 FAX.044-222-5556

For Earth, For Life
Kubota
水とともに景色をつくる
1955年の創業以来、安全な水を必要とする世界の人々のために、私たちは、水の供給と再生に尽力してきました。インフラ整備で培ってきた知識やノウハウと、新たな水の課題に応える独自の工法で あたり前に水が使えることを、これからもずっと支えていく。水が生み出す喜びの景色を私たちはつくり続けます。
株式会社クボタ建設
当社は水事業の建設会社「水コン（水コンストラクション）」として活動しています。

地球にやさしい
指示部回転式水道メーター
新型 SDシリーズ
樹脂製部品を
大幅に減らすことで CO2 削減に貢献しています！
愛知時計電機株式会社
札幌支店：TEL 011-642-9500 仙台支店：TEL 022-258-1181
東京支店：TEL 03-5323-5352 名古屋支店：TEL 052-661-5843
大阪支店：TEL 06-6805-9052 福岡支店：TEL 092-534-2050

水と生きる
ISO 9001認定登録（全社）
ISO 14001認定登録（本社・豊橋・広島・三重・静岡事務所）
調査・計画・設計から施工管理まで一貫した業務を行っています
上水道・下水道・工業用水道
農業・農村
河川・砂防・海岸・海洋
道路・河川・都市公園事業全般
（公社）全国上下水道コンサルタント協会会員
人・街・自然・いきいき
中日本建設コンサルタント株式会社
代表取締役社長 上田直和
品質方針／顧客に信頼と満足を提供 品質目標／顧客第一、品質向上、社内協調
本社／〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目8番6号（ONEST名古屋錦スクエア） ☎052-232-6030(代)
東京支社／〒105-0016 東京都千代田区五番町14（国際中正会館ビル6階） ☎03-6261-3710(代)
大阪支社／〒540-0026 大阪市中央区内本町1丁目3番5号（いちご内本町ビル2階） ☎06-4794-7001(代)
事務所／札幌・仙台・茨城・取手・群馬・北関東・千葉・豊ヶ谷・神奈川・新潟・佐渡・静岡・三島・長野・都田・豊橋・岐阜・三重・伊賀・富山・福井・御所・京都・滋賀・奈良・神戸・岡山・広島・和歌山・鳥取・島根・山口・松山・徳島・香川・九州・長崎・熊本

解く
寄木が美しい精巧なからくり箱
複雑な問題も慎重に解決します
結ぶ
魔除けや縁結びを意味する水引
地域の人々とのご縁を結びます
拓く
竹に飾り糸と和紙を設えた優美な和傘
ひとつの傘に共に集い未来を拓きます
株式会社日水コン
私たちは「水のインパクトカンパニー」です

おかげさまで70周年
水と環境のConsulting＆Software
NJS
公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会会員
株式会社NJS
代表取締役社長 村上雅亮
〒105-0023
東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング14階
TEL：03-6324-4355 FAX：03-6324-4356
https://www.njs.co.jp/